

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number :

2001-309424

(43) Date of publication of application : 02.11.2001

(51)Int.CI.	H04Q	7/36
	H01Q	3/26
	H04Q	7/38

(21)Application number : 2000-120633

(71)Applicant : TOSHIBA CORP

(22) Date of filing : 21.04.2000

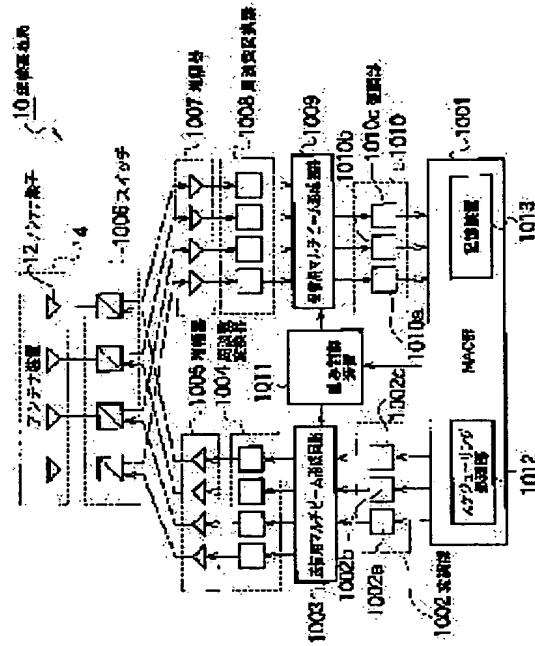
(72)Inventor : TOSHIMITSU KIYOSHI
KASAMI HIDEO
TAMADA YUZO

(54) WIRELESS BASE STATION AND ITS FRAME CONFIGURATION METHOD

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a wireless base station, that adopts both the time division multiple access system and the space division multiple access system and conducts wireless communication with wireless terminals, and to provide a frame configuration method for the wireless base station.

SOLUTION: The wireless base station transfers a signal as a time division multiplexed frame to the wireless terminals. The wireless base station consists of a beam forming section, that simultaneously forms beams subjected to space division, antenna elements that emits the beams to the wireless terminals, and a scheduling processing section that assigns a communication band to the wireless terminals respectively, so as to prevent the occurrence of interference among the signals transferred to frames corresponding to at least any of the beams by different frames.



特開2001-309424

(P2001-309424A)

(43) 公開日 平成13年11月2日 (2001.11.2)

(51) Int. C1. 7

識別記号

F I

マーク (参考)

H04Q 7/36

H01Q 3/26

Z 5J021

H01Q 3/26

H04B 7/26

105 D 5K067

H04Q 7/38

109 A

審査請求 未請求 請求項の数 19

OL

(全 15 頁)

(21) 出願番号

特願2000-120633 (P2000-120633)

(71) 出願人 000003078

株式会社東芝

東京都港区芝浦一丁目1番1号

(22) 出願日 平成12年4月21日 (2000.4.21)

(72) 発明者 利光 清

神奈川県川崎市幸区小向東芝町1 株式会
社東芝研究開発センター内

(72) 発明者 笠見 英男

神奈川県川崎市幸区小向東芝町1 株式会
社東芝研究開発センター内

(74) 代理人 100083806

弁理士 三好 秀和 (外7名)

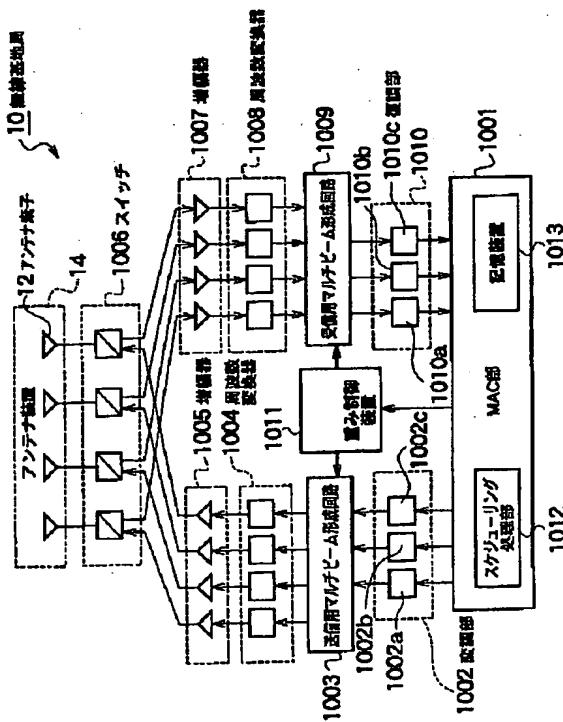
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】無線基地局およびそのフレーム構成方法

(57) 【要約】

【課題】 時分割多元接続方式と空間分割多元接続方式の両方を採用し、複数の無線端末との間で無線通信を行なう無線基地局、およびその無線基地局のフレーム構成方法を提供する。

【解決手段】 複数の無線端末との間で、信号を時分割多重化されたフレームとして転送する無線基地局である。この無線基地局は、空間分割された複数のビームを同時に形成するビーム形成部と、その複数のビームを無線端末に向かって放射し、その無線端末との間で信号を転送する複数のアンテナ素子と、ビームのうちの少なくとも1つに対応する、複数のフレームに対して、異なるフレームで転送される信号間で相互干渉が生じないよう、無線端末それぞれに通信帯域を割り当てるスケジューリング処理部と、から構成される。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数の無線端末との間で、信号を時分割多重化されたフレームとして転送する無線基地局であつて、

空間分割された複数のビームを同時に形成するビーム形成部と、

前記ビームを前記無線端末に向かって放射し、前記無線端末との間で信号を転送する複数のアンテナ素子と、

該ビームのうちの少なくとも1つに対応する、複数のフレームに対して、異なるフレームで転送される信号間で相互干渉が生じないように、前記無線端末それぞれに通信帯域を割り当てるスケジューリング処理部とを有することを特徴とする無線基地局。

【請求項2】 前記スケジューリング処理部は、前記フレームすべてのフレーム構成を示す全フレーム構成情報を、前記フレームのいずれかに割り当てて、かつ、異なる無線端末との間で同一時刻に転送される信号どうしが相互干渉しない場合に、該異なる無線端末それぞれに、異なるフレームの同一時刻の通信帯域を割り当てる、ことを特徴とする請求項1に記載の無線基地局。

【請求項3】 前記全フレーム構成情報は、前記無線端末すべてに対して一斉に通知される、ことを特徴とする請求項2に記載の無線基地局。

【請求項4】 前記スケジューリング処理部は、前記フレームそれぞれのフレーム構成を示す、複数のフレーム構成情報をそれを、前記フレームごとに割り当てて、かつ、異なる無線端末との間で転送される信号どうしが相互干渉しない場合に、該異なる無線端末それぞれに、異なるフレームの通信帯域を割り当てる、ことを特徴とする請求項1に記載の無線基地局。

【請求項5】 前記フレーム構成情報は、前記無線端末すべてに対して一斉に通知される、ことを特徴とする請求項4に記載の無線基地局。

【請求項6】 前記無線端末それぞれに対応する、前記ビームを形成するための重み付け量を保持する記憶部と、該重み付け量を前記ビームに設定する重み制御部と、をさらに有することを特徴とする請求項1に記載の無線基地局。

【請求項7】 前記スケジューリング処理部は、前記記憶部に保持された前記無線端末それぞれの重み付け量に基づいて、異なる無線端末との間で転送される信号どうしが相互干渉するか否かを判断する、ことを特徴とする請求項6に記載の無線基地局。

【請求項8】 前記スケジューリング処理部は、重み付け量がほぼ等しい無線端末の集合を、同一の無線端末として取り扱う、ことを特徴とする請求項6に記載の無線基地局。

【請求項9】 前記ビーム形成部は、前記アンテナ素子で送受信される信号それぞれに対して、前記重み制御部によって設定された重み付けを行なうことで、複数のビ

ームを同時に形成するマルチビーム形成回路、を有することを特徴とする請求項6に記載の無線基地局。

【請求項10】 複数の無線端末と無線基地局との間で、信号を時分割多重化して転送するフレームのフレーム構成方法であつて、

複数のフレームに対して、該フレームのすべてのフレーム構成を示す全フレーム構成情報を、前記フレームのいずれかに割り当てる工程と、

異なる無線端末との間で同一時刻に転送される信号どうしが相互干渉しない場合に、該異なる無線端末それぞれに、異なるフレームの同一時刻の通信帯域を割り当てる工程とを含むことを特徴とするフレーム構成方法。

【請求項11】 前記全フレーム構成情報を割り当てる工程は、前記無線端末すべてに対して一斉に送信される制御情報が割り当てられたフレームに、前記全フレーム構成情報を割り当てるステップ、を含むことを特徴とする請求項10に記載のフレーム構成方法。

【請求項12】 前記通信帯域を割り当てる工程は、前記フレームそれぞれに割り当てられた通信帯域の総和どうしに差がある場合に、該総和の小さい方のフレームに対して、次の通信帯域を割り当てるステップ、を含むことを特徴とする請求項11に記載のフレーム構成方法。

【請求項13】 前記次の通信帯域を割り当てるステップは、前記フレームの中からあらかじめ選ばれた基準フレームの通信帯域の総和を超えないように、次の通信帯域の割り当てを決定するステップ、を含むことを特徴とする請求項12に記載のフレーム構成方法。

【請求項14】 前記次の通信帯域を割り当てるステップは、前記通信帯域の総和どうしの差を、あらかじめ定められた比較値と、比較するステップ、を含むことを特徴とする請求項12に記載のフレーム構成方法。

【請求項15】 前記次に通信帯域を割り当てるステップは、前記通信帯域の総和どうしの差が少ない場合に、前記フレームそれぞれの通信帯域の総和は同一であるとみなすステップ、を含むことを特徴とする請求項12に記載のフレーム構成方法。

【請求項16】 前記通信帯域を割り当てる工程は、前記無線端末それぞれに対応した、前記無線基地局との間での信号を転送するビームを形成するための重み付け量に基づいて、前記相互干渉が生じるか否かを判断するステップ、を含むことを特徴とする請求項10に記載のフレーム構成方法。

【請求項17】 複数の無線端末と無線基地局との間で、信号を時分割多重化して転送するフレームのフレーム構成方法であつて、複数のフレームに対して、該フレームそれぞれのフレーム構成を示す、複数のフレーム構成情報をそれを、前記フレームごとに割り当てる工程と、異なる無線端末との間で転送される信号どうしが相互干渉しない場合に、該異なる無線端末それぞれに、異なるフレームの通信帯域を割り当てる工程とを含むことを特

徴とするフレーム構成方法。

【請求項18】前記通信帯域を割り当てる工程は、前記フレームそれぞれに割り当てられた通信帯域のうち、該総和の最も小さいフレームに対して、次の通信帯域を割り当てるステップ、を含むことを特徴とする請求項17に記載のフレーム構成方法。

【請求項19】前記通信帯域を割り当てる工程は、前記無線端末それぞれに対応した、前記無線基地局との間での信号を転送するビームを形成するための重み付け量に基づいて、前記相互干渉を判断するステップ、を含むことを特徴とする請求項17に記載のフレーム構成方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、時分割多元接続方式と空間分割多元接続方式の両方を採用し、複数の無線端末との間で無線通信を行なう無線基地局、およびその無線基地局のフレーム構成方法に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、無線データ通信の需要が高まりつつあり、これに伴って各無線端末それぞれに必要な無線帯域を割り当てる要求が高まって来ている。各無線端末に割り当てる無線帯域を可変にするためには、ユーザ間で無線帯域の割り当て調整を行なうスケジューラが必要である。たとえばESTI-BRAN (European Telecommunications Standards Institute Broad Band Radio Access Networks) で検討されているHIPERLAN2や、ARIB (Association of Radio Industries and Businesses) で検討されているMMAC (Multimedia Mobile Access Communication systems) は、無線基地局のMAC (Medium Access Control、媒体アクセス制御) が各フレームのフレーム構成を決定し、無線端末に対し報知する集中制御型の無線システムである。そのため、ESTI-BRANやMMACは、無線LANだけでなく、FWA (Fixed Wireless Access) と呼ばれる加入者無線システムへの応用に適している。

【0003】一方、限られた無線周波数を有効活用するために、近年、SDMA (Space Division Multiple Access) と呼ばれる空間分割多元接続方式の検討が行われている。これは、アンテナの指向性を制御し、各無線端末間の干渉を抑制する方式である。本方式は、同一周波数、同一時刻に異なる無線端末との通信を可能にするために、無線基地局が1つ以上の変復調部を備えることを要求する。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、これまで、フレーム構成を有した時分割多元接続 (TDMA : Time Division Multiple Access) 方式で無線通信を行なう無線基地局に対し、複数の変復調部を具備した場合の具体的なフレーム構成方法について検討されていなか

った。

【0005】本発明は、上記事情に鑑みて成されたものであり、時分割多元接続方式と空間分割多元接続方式の両方を採用することで、複数の無線端末との間で無線通信を行なう際に、各無線端末に割り当てる通信帯域を可変とすることができる無線基地局、およびそのフレーム構成方法を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため10に、本発明は、複数の無線端末との間で、信号を時分割多重化されたフレームとして転送する無線基地局であって、空間分割された複数のビームを同時に形成するビーム形成部と、その複数のビームを無線端末に向かって放射し、その無線端末との間で信号を転送する複数のアンテナ素子と、複数のビームのうちの少なくとも1つに対応する複数のフレームに対して、異なるフレームで転送される信号間で相互干渉が生じないように、無線端末それぞれに通信帯域を割り当てるスケジューリング処理部とを有する無線基地局であることを第1の特徴とする。

20 【0007】この第1の発明によれば、時分割多重化された複数のフレームを、空間分割された複数のビームを介して、配信することで、同一周波数、同一時刻に、異なる無線端末と無線基地局との間での無線通信が可能となる。このため、無線基地局が収容できる無線端末の数を増大させることができる。

【0008】本発明の第2の特徴は、複数の無線端末と無線基地局との間で、信号を時分割多重化して転送するフレームのフレーム構成方法であって、複数のフレームに対して、それらフレームのすべてのフレーム構成を示す30全フレーム構成情報を、それらフレームのうちのいずれかに割り当てる工程と、異なる無線端末との間で同一時刻に転送される信号どうしが相互干渉しない場合に、その異なる無線端末それぞれに、異なるフレームの同一時刻の通信帯域を割り当てる工程と、を少なくとも含むフレーム構成方法であることである。

【0009】本発明の第3の特徴は、複数の無線端末と無線基地局との間で、信号を時分割多重化して転送するフレームのフレーム構成方法であって、複数のフレームに対して、それらフレームそれぞれのフレーム構成を示す40、複数のフレーム構成情報を、フレームごとに割り当てる工程と、異なる無線端末との間で転送される信号どうしが相互干渉しない場合に、その異なる無線端末それぞれに、異なるフレームの通信帯域を割り当てる工程と、を少なくとも含むフレーム構成方法であることである。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して本発明の実施の形態について詳細に説明する。以下の図面の記載において、同一または類似の部分には同一または類似の符号を付している。

【0011】図1に、本発明の実施の形態に係る無線基地局が配置された、無線通信システムの構成を示す。図1に示すように、本発明の実施の形態に係る無線基地局10は、複数のアンテナ素子12から成り、複数のビームパターンの形成が可能なアンテナ装置14と、送信するデータを変調する変調部(図示しない)と、受信した無線信号の復調する復調部(図示しない)と、を備えている。もちろん、変調部と復調部が一体化された変復調部を備える構成であっても良い。そして、無線基地局10のビームパターンによって形成される複数のビームエリア16は、この通信システムのサービスエリア18を構成する。無線基地局10は、複数のビームパターンの形成によって、サービスエリア18に在図する、無線信号の送受信機能を備えた無線端末20との間で、無線信号の送受信を実行する。

【0012】図2は、本発明の実施の形態に係る無線基地局10の構成を示すブロック図である。図2に示すように、本発明の実施の形態に係る無線基地局10は、無線端末20との間での無線信号の送受信に利用されるフレームの組み立てや、そのフレームに対する通信帯域の割り当てを行なうMAC(Medium Access Control)部1001を備えている。そして、MAC部1001には、その機能の実現のため、フレームを構成するためのスケジューリング処理部1012、および無線端末20それぞれの端末情報を記憶する記憶装置1013、が設けられている。図2では、説明の簡単化を図るために、アンテナ装置14が有するアンテナ素子12の数は4つとする。そして、アンテナ装置14は送信系と受信系で共用されるものとする。

【0013】図2に示すように、アンテナ素子12それぞれには、各アンテナ素子に対応して、スイッチ1006が接続されている。そして、スイッチ1006の切り替えによって、アンテナ装置14の送信・受信の切り替えが行なわれる。

【0014】受信系においては、スイッチ1006を介して、各アンテナ素子12で受信された信号は、スイッチ1006を介して、各アンテナ素子12に対応する増幅器(低雑音増幅)1007に入力される。入力された受信信号は、増幅器1007によって、増幅される。

【0015】増幅された受信信号は、周波数変換器1008によって、RF帯から、IF帯もしくはベースバンド帯に周波数変換される。このIF帯もしくはベースバンド帯において、受信用マルチビーム形成回路1009は、各周波数変換器1008から出力された受信信号に対して、各受信信号ごとに所定の重み付けを行なって、複数の受信ビームを同時形成する。この重み付けは、重み制御装置1011によって、実行される。

【0016】図3に、図2の受信用マルチビーム形成回路1009の構成を示す。図3では、同時形成されるビームの数は3つである。各周波数変換器1008から出

力された受信信号は、それぞれに対応する受信用ビーム形成回路1014(1014a, 1014b, 1014c)に入力される。各受信用ビーム形成回路1014は、入力された受信信号を、重み制御装置1011によって設定された重み付け量に基づいて、重み付け合成する。そして、各受信用ビーム形成回路1014は、重み付け合成された信号を、それぞれに対応する復調部1010に出力する。図4に、図3の受信用ビーム形成回路1014aの構成を示す。各周波数変換器1008から出力された受信信号は、それぞれに対応する重み付け器1015に入力され、所定の重み付けがなされる。ここで、重み付け器1015による重み付けの方法としては、たとえば振幅重み付けや、位相重み付け、振幅位相重み付け、が挙げられる。そして、重み付けされた受信信号それぞれは、合成器1016により合成される。

【0017】一方、送信系においては、図2に示すように、各変調部1002で変調された送信信号が、送信用マルチビーム形成回路1003に出力される。送信用マルチビーム形成回路1003は、各変調部1002で変調された送信信号に対して、各送信信号ごとに所定の重み付けを行なって、複数の送信ビームを同時形成する。この重み付けも、重み制御装置1011によって、実行される。また、この重み付け量は、同一の無線端末20に対しては送信系と受信系のビームパターンが一致するように設定される。

【0018】図5に、図2の送信用マルチビーム形成回路1003の構成を示す。各変調部1002出力された送信信号は、それぞれに対応する送信用ビーム形成回路1017(1017a, 1017b, 1017c)に入力される。各送信用ビーム形成回路1017は、入力された送信信号を、重み制御装置1011によって設定された重み付け量に基づいて、重み付け合成する。そして、各送信用ビーム形成回路1017は、重み付け合成された信号を、それぞれに対応する周波数変換器1004に出力する。

【0019】図6に、図5の送信用ビーム形成回路1017aの構成を示す。変調部1002から出力された送信信号は、分配器1019により分配され、その分配された各信号は、重み付け器1015に入力され、所定の重み付けがなされる。

【0020】図2に示すように、送信用マルチビーム形成回路1003によって形成された4つのビームは、それぞれに対応する周波数変換器1004によりRF帯へ周波数変換される。そして、周波数変換された各送信信号は、増幅器(高出力増幅器)1005により増幅された後、スイッチ1006を介して、それぞれに対応するアンテナ素子12から無線端末20に送信される。

【0021】本発明の実施の形態に係る無線基地局10においては、図1の無線端末20との間で無線通信を行なう場合、上記したように、重み制御装置1011が、

各無線端末20に対応した適切な重み付け量を導出する。そして、この導出された重み付け量は、その無線端末20の識別子に対応付けられて、図2の記憶装置1013内に格納される。重み制御装置1011は、適宜、記憶装置1013から、各無線端末20に適した重み付け量を読み出すことができる。

【0022】MAC部1001は、各変調部1002および各復調部1010それぞれと接続し、各変調部および復調部1002、1010に対応したフレームを構成する。TDMA/TDD (Time Division Multiple Access/Time Division Duplex) 方式の場合、たとえば変調部1002aと復調部1010aが1組となって1つのフレームを構成する。同様に、変調部1002bと復調部1010b、変調部1002cと復調部1010c、それぞれが1組となって1つのフレームを構成する。そして、本発明では、この変調部と復調部の組を1つの変復調部とみなす。また、TDMA/FDD (Time Division Multiple Access/Frequency Division Duplex) 方式の場合、変調部1002aが送信用フレーム、復調部1010aが受信用フレームを構成し、この送信用フレームと受信用フレームを組として用いることにより通信(送受信)が行われる。同様に、変調部1002b、1002cが送信用フレームを構成し、復調部1010b、1010cが受信用フレームを構成し、送信用フレームと受信用フレームをそれぞれ組として用いて通信を行なう。そして、本発明では、送信用フレームと受信用フレームがそれぞれ組となる変調部と復調部の組を1つの変復調部とみなす。

【0023】MAC部1001に設けられた重み制御装置1011は、図1の無線端末局20それぞれに対し、最適な重み付け量を導出することにより、各無線端末20に対して最適なビームパターンを形成する。たとえば、重み制御装置1011に、各アンテナ素子12で受信された受信信号の強度や信号波形を測定する機能を附加することで、受信系でのアンテナビーム形成を適応的に行なうことができる。このアンテナビーム形成としてはたとえば、1つのアンテナ素子12で受信された不要な電波(干渉信号)を伝達しないように受信強度の大きなアンテナ素子12のみを選択したり、受信信号に基づいて適応制御アルゴリズムを用いてアーレアンテナの主ビームを所望波の到来方向に向け、かつ干渉波の到来方向に指向性の零点(ヌル)を形成するような複数のビームを同時形成する重み付け量を導出したりすれば良い。

【0024】また、無線端末20の位置情報を取得できれば、その位置情報を利用することで、最適な重み付け量を導出することも可能である。もちろん、本発明は、重み付け量の導出方法を限定するものではない。本発明は、所定の方法で導出された、各無線端末20ごとの最適重み付け量を、各無線端末の識別子に対応付けて、各無線端末20ごとに記憶装置1013に保持する。そし

て、1つの無線端末20と無線通信する場合、その無線端末20の識別子に対応する重み付け量を記憶装置1013から読み出し、その読み出された重み付け量を、送信用マルチビーム形成回路および受信用マルチビーム形成回路1003、1009に設定するものである。

【0025】次に、本発明の実施の形態に係る無線通信システムで用いられるフレーム構成について説明する。無線基地局10のスケジューリング処理部1012は、上述した各無線端末20の重み付け量を利用して、各無線端末20に対し、無線帯域の割り当てを行い、各変復調部に対するフレームを構成する。ここでは、TDMA/TDDフレームを用いて説明する。もちろん、本発明は、TDMA/TDDフレームを採用するものに限定されるわけではない。

【0026】図7に、一般的なTDMA/TDDフレームの構成を示す。図7に示すように、このTDMA/TDDフレームは、変復調部が1つの場合の基本的なフレーム構成の一例であり、報知チャネル、通信チャネル、およびランダムアクセスチャネル、から構成される。報知チャネルは、無線基地局10の識別子などの制御情報や、そのフレームの構成要素(帯域割り当て通知)を通知するためチャネルである。以下では、特に、前者である識別子などの制御情報を通信するためのチャネルをBCH(Broadcast Channel)、後者であるフレームの構成要素を通知するためのチャネルをFCH(Frame Channel)と呼ぶこととする。また、通信チャネルは、無線端末20と無線基地局10が通信を行なうためのチャネルである。ランダムアクセスチャネルは、通信開始時などのランダムアクセスに利用するためのチャネルである。なお、図7のフレーム構成では、報知チャネル(BCH、FCH)、通信チャネル、ランダムアクセスチャネルの順に並んでいるが、各チャネルの順番は、これに限定されるものではない。

【0027】図7のフレーム構成は、変復調部が1つの場合であるが、変復調部が複数ある場であっても、基本的には、図7と同様のフレーム構成を探る。ただし、報知チャネルについては、BCHおよびFCHを1つの報知チャネルとして取り扱う場合(以下、「1FCH」と呼ぶ)と、別々のチャネルとして取り扱う場合(以下、「複数FCH」と呼ぶ)で、フレーム構成が若干異なる。以下では、BCHとFCHを合わせて1つの情報とみなして送信する場合(図8(a)参照)と、BCHとFCHをそれぞれ別々の情報として送信する場合(図8(b)参照)について説明する。

【0028】(1FCH) 1FCHの場合、無線基地局10は、1つのFCHによって、すべての変調部および復調部に対応するフレーム構成を、各無線端末20に通知する必要がある。このため、無線基地局10は、FCHをBCHと共に、同一の変調部で変調し、アンテナ装置14に指向性を持たせることなく無指向で、サービス

エリア18内のすべての無線端末20に送信しなければならない。

【0029】図9に、1FCHの場合における、フレーム構成を示す。図9では、図2で示したように、変調部1002および復調部1010がそれぞれ3つであり、変調部1002aと復調部1010a、変調部1002bと復調部1010b、変調部1002cと復調部1010cが、それぞれ組となって、送受信処理を行なうとする。また、変調部1002aと復調部1010aが構成するフレームを「フレーム1」、変調部1002bと復調部1010bが構成するフレームを「フレーム2」、変調部1002cと復調部1010cが構成するフレームを「フレーム3」とする。

【0030】図9に示したフレーム構成の場合、1つのFCHにより、フレーム1、2、3用のフレーム構成を、各無線端末20に通知する。アンテナ装置14に指向性を持たせずに送信する場合、複数の変調部1002の中から1つ選択される。この選択を行なうには、たとえば図10に示すように、MAC部1001内に変復調部選択部1020を設ければ良い。この変復調部選択部1020により、複数の変調部1002の中から1つを選択し、その選択された変調部1002により変調処理を行ない送信するように構成すれば良い。同様に、アンテナ装置14に指向性を持たせずに受信する場合、変復調部選択部1020によって、複数の復調部1010の中から1つを選択し、その選択された復調部1010により復調処理を行なって受信するように構成すれば良い。もちろん、変復調部選択部1020は、各フレームごとに、1つの変調部1002および復調部1010を選択しても良いし、無指向で送信および受信する場合には、あらかじめ決められた変調部1002および復調部1010を選択するようにしても良い。

【0031】(複数FCH)複数FCHの場合、無線基地局10は、まず最初に、BCHを、アンテナに指向性を持たせずに無指向で、すべての無線端末20に一斉に送信する。その後、各フレームそれぞれのFCHを、それぞれに対応する変調部1002を利用して変調し、各FCHそれぞれに適したアンテナ指向性を持たせて、それぞれに対応する無線端末20に、同時に送信する。

【0032】図11に、複数FCHの場合における、フレーム構成を示す。図11においても、図2で示したように、変調部1002および復調部1010がそれぞれ3つであり、変調部1002aと復調部1010a、変調部1002bと復調部1010b、変調部1002cと復調部1010cが、それぞれ組となって、送受信処理を行なうとする。また、変調部1002aと復調部1010aが構成するフレームを「フレーム1」、変調部1002bと復調部1010bが構成するフレームを「フレーム2」、変調部1002cと復調部1010cが構成するフレームを「フレーム3」とする。図11の場

合、変調部1002aで変調された後、送信されるFCH(「FCH1」と呼ぶ)は、フレーム1のフレーム構成を通知し、変調部1002bで変調された後、送信されるFCH(「FCH2」と呼ぶ)は、フレーム2のフレーム構成を通知し、変調部1002cで変調された後、送信されるFCH(「FCH3」と呼ぶ)は、フレーム3のフレーム構成を通知することになる。

【0033】次に、上記の1FCHおよび複数FCHそれぞれの特徴について説明する。1FCHの場合、すべての変調部1002および復調部1010の組が構成するフレーム1、2、3のフレーム構成を、1つのFCHを用いて通知する。このため、FCHが比較的長くなり、通信チャネル用の通信帯域をより多く探ることができなくなる。一方、複数FCHの場合、各フレームごとにFCHを送信するので、各FCH長は比較的短くて済み、その分だけ通信チャネル用の通信帯域を多く探ることが可能となる。しかしながら、各FCH1、2、3が互いに干渉を及ぼさないように送信する必要がある。

【0034】これらのこととは、各フレーム1、2、3の通信チャネルのスケジューリングアルゴリズムの観点から見ると、次のことを意味する。すなわち、1FCHの場合、1つのFCHですべてのフレーム1、2、3のフレーム構成を各無線端末20に一斉に通知する。このため、複数FCHのように、各FCH1、2、3間の干渉を考慮する必要がない。したがって、図12(a)に示すように、通信チャネルのスケジューリングは、同一時刻に送受信される、各フレーム1、2、3の通信チャネルの信号(パケットA、B、C)間で互いに干渉を及ぼさないようにスケジューリングするだけで良い。そして、異なる時刻に送受信される、各フレーム1、2、3の通信チャネルの信号(パケットBとパケットD、パケットCとパケットD)間での干渉は考慮する必要がない。

【0035】これに対し、複数FCHの場合、各フレーム1、2、3の通信チャネルで送受信されるすべての信号間で、互いに干渉を及ぼさないようにスケジューリングする必要が生じる。それは、次の理由によるものである。すなわち、複数FCHの場合、各フレーム1、2、3ごとに、それぞれのフレームの構成要素を通知するFCH1、2、3を、各フレーム1、2、3に対応する無線端末20だけに通知する。つまり、フレーム1で送受信するようにスケジューリングされる無線端末20(無線端末群1)だけにFCH1を送信し、フレーム2で送受信するようにスケジューリングされる無線端末20(無線端末群2)だけにFCH2を送信し、フレーム3で送受信するようにスケジューリングされる無線端末20(無線端末群3)だけにFCH3を送信する必要がある。このため、FCH1を送信する際のアンテナの指向性は無線端末群1に設定され、FCH2を送信する際のアンテナの指向性は無線端末群2に設定され、FCH3

を送信する際のアンテナの指向性は無線端末群3に設定される。

【0036】ここで、図12 (b) に示すように、これらFCH1, 2, 3は、全無線端末20に一斉に送信されるBCHの直後に、同じタイミングで、各無線端末群それぞれに送信される。このため、FCH1, 2, 3は、互いに干渉し合うことを避ける必要がある。したがって、各FCH1, 2, 3の後に送受信される、フレーム1の通信チャネルで送受信されるすべての信号、フレーム2の通信チャネルで送受信されるすべての信号、および、フレーム3の通信チャネルで送受信されるすべての信号の間においても、それぞれ互いに干渉を及ぼさないようにスケジューリングする必要が生じてしまう。

【0037】次に、本発明の実施の形態に係る無線通信システムで用いられるフレーム構成のスケジューリング方法について説明する。以下では、上記の1FCHおよび複数FCHそれぞれを採用した場合における、フレーム構成のスケジューリング方法を説明する。また、説明の簡単化を図るために、図2に例示するように、変調部1002および復調部1010は共に3つとする。

【0038】(A) 1FCHの場合

図13は、1FCHを採用した場合における、フレーム構成の第1のスケジューリング方法の処理手順を示すフローチャートである。

【0039】まず、図13のステップS101において、各フレーム1, 2, 3に対する通信帯域の割り当てを行なう。

【0040】図2のスケジューリング処理部1012は、図1のサービスエリア18内に在図する、複数の無線端末20のうち、ダウンリンク(無線基地局10→無線端末20)で最も大きい通信帯域を必要とする無線端末20a(以下、「Ma」と呼ぶ)を1つ選択する。そして、その選択された無線端末Maの重み付け量(以下、「Ga」と呼ぶ)を、図2の記憶装置1013から抽出する。ここで、無線端末Maが必要とする通信帯域を「Ba」と呼ぶ。なお、「通信帯域」は、無線チャネルで必要な帯域のことを指すものとする。したがって、通信帯域は、適用される変調方式、誤り定性方式、物理プリアンブルなどによって変化する値である。

【0041】次に、スケジューリング処理部1012は、選択された無線端末Maの重み付け量Gaに干渉を及ぼさない重み付け量を記憶装置1013から選択し、その選択された重み付け量の無線端末20のうち、最も大きい通信帯域を必要とする無線端末20b(以下、「Mb」と呼ぶ)を1つ選択する。ここで、無線端末Mbの重み付け量を「Gb」、無線端末Mbが必要とする通信帯域を「Bb」と呼ぶ。

【0042】次に、スケジューリング装置1012は、選択された2つの無線端末Maおよび無線端末Mbの重み付け量Ga, Gbの両方に干渉を及ぼさない重み付け

量を記憶装置1013から選択し、その選択された重み付け量の無線端末20のうち、最も大きい通信帯域を必要とする無線端末20c(以下、「Mc」と呼ぶ)を1つ選択する。ここで、無線端末Mcの重み付け量を「Gc」、無線端末Mcが必要とする通信帯域を「Bc」と呼ぶ。

【0043】このように選択された無線端末Ma, Mb, Mc間では、次に示す関係が成立している。

【0044】(a) 重み付け量Ga, Gb, Gcは、互いに干渉を及ぼさない。

【0045】(b) 通信帯域Ba, Bc, Bdの大小関係は、Ba > Bb > Bcである。

【0046】そして、たとえば図14に例示するように、重み付け量Gaの無線端末Ma(無線端末20a)、重み付け量Gbに無線端末Mb(無線端末20b)、および重み付け量Gcの無線端末Mc(無線端末20c)それぞれに対して、無線基地局10は、アンテナ装置14で3つのアンテナ指向性(ビームパターン)22a, 22b, 22cを形成する。

【0047】以下では、図12(a)のフレーム1が、フレーム構成のスケジューリングを行なう際に基準となるフレーム(基準フレーム)であるとする。この場合、スケジューリング装置1012は、図15(a)に示すように、必要とする通信帯域が最も大きい無線端末Maにフレーム1の通信帯域を割り当てる。必要とする通信帯域が次に大きい無線端末Mbにたとえばフレーム2を割り当てる。必要とする通信帯域が最も小さい無線端末Mbにたとえばフレーム3を割り当てる。そして、各無線端末Ma, Mb, Mcに割り当てられた通信帯域はすべて、FCHの通知直後から開始するようにスケジューリングされる。

【0048】次に、図13のステップS102において、スケジューリング処理部1012は、各フレーム1, 2, 3に割り当てられた、通信帯域Ba, Bb, Bcの差を計算する。具体的には、基準フレームであるフレーム1に割り当てられた通信帯域Baとフレーム2に割り当てられた通信帯域Bbとの差、および通信帯域Baとフレーム3に割り当てられた通信帯域Bcとの差、をそれぞれ算出する。

【0049】次に、図13のステップS103において、スケジューリング処理部1012は、上記のステップS102で算出された、各通信帯域差それぞれを、あらかじめ設定された所定の値(比較値)と、比較する。すべての差が比較値以下である場合には(S103以下)、通信帯域Ba, BbおよびBcは同じであるとみなす。ただし、最も大きい通信帯域を、3つの通信帯域Ba, Bb, Bcの代表値とする。この代表値は、以降において、同じであるとみなされた、これらの通信帯域に共通する値として利用される。そして、上記のステップS101に戻り、図15(b)に示すように、無線端

末M_a、M_b、M_c以外の、サービスエリア18内の無線端末20に対して、同様に、ステップS101～ステップS103を実行する。ただし、2回目以降のステップS101では、各フレーム1、2、3のFCHの通知直後ではなく、これまで割り当てられた通信帯域の総和の代表値の後に通信帯域を割り当てる。

【0050】一方、通信帯域差のいざれかが、比較値以上である場合には(S103以上)、ステップS104に進む。

【0051】図13のステップS104において、たとえば通信帯域B_aと通信帯域B_bとの差が比較値以下であり、通信帯域B_aと通信帯域B_cとの差が比較値以上である場合、スケジューリング処理部1012は、通信帯域B_aと通信帯域B_bは同じであるとみなす。そして、大きい方の通信帯域を代表値とする。

【0052】一方、スケジューリング処理部1012は、通信帯域B_cに続く通信帯域の割り当てを、フレーム3に対して実行する。スケジューリング処理部1012は、フレーム3以外のフレーム1、2にすでに割り当てられている無線端末M_a、M_bの重み付け量G_a、G_bに干渉を及ぼさない重み付け量を記憶装置1013から選択する。さらに、その選択された重み付け量の無線端末20中から、必要とする通信帯域が、通信帯域B_aと通信帯域B_cとの差以下である無線端末20のうち(以下、「条件A」と呼ぶ)、最大の通信帯域を必要とする無線端末20(以下、「M_d」呼ぶ)を選択する。ここで、無線端末M_dの重み付け量を「G_d」、無線端末M_dが必要とする通信帯域を「B_d」と呼ぶ。

【0053】そして、図15(c)に示すように、無線端末M_dに対し、フレーム3の通信帯域B_cの後に、通信帯域B_dを割り当てる。

【0054】図13のステップS105において、図1のサービスエリア18内に在囲するすべての無線端末20に対する通信帯域の割り当てが終了すれば(S105 YES)、ダウンリンクの通信帯域の割り当てを終了する。また、フレーム1、2、3内の残りのダウンリンク用通信帯域が所定値以下である場合にも(S105 YES)、同様に、ダウンリンクの通信帯域の割り当てを終了する。

【0055】一方、まだ通信帯域が割り当てされていない無線端末20が存在し、ダウンリンク用通信帯域の残りが所定値以上であれば(S105 NO)、再びステップS102に戻る。そして、スケジューリング処理部1012は、今度は、通信帯域B_aと通信帯域B_c、B_dの総和(B_c+B_d)との差を計算し、ステップS103で、その差を比較値との比較を実行する。

【0056】このようにダウンリンクの割り当てを行った後、残りの通信帯域をアップリンク(無線端末20→無線基地局10)に割り当てるところになる。TDMA/TDD方式の場合、1つのフレームで送信処理が行われ

ている時刻に、別のフレームでは受信処理が行われることもあるが、互いに干渉を及ぼさなければ何ら問題はない、上述のアルゴリズムが適用できる。つまり、アップリンクの割り当てもダウンリンクの割り当てと同様に行なうことができる。ここでは、アップリンク割り当てに関する詳細説明は省略する。もちろん、ダウンリンクに割り当てた通信帯域の残りに、必ずしも、アップリンクの通信帯域を割り当てる必要はない。

【0057】次に、1FCHを採用した場合における、10 第2のスケジューリング方法について説明する。図16は、1FCHを採用した場合における、フレーム構成の第2のスケジューリング方法の処理手順を示すフローチャートである。図13に示した第1のスケジューリング方法では、ステップS104で、次に割り当てられる重み付け量を選択する際に、条件A(「必要とする通信帯域が、通信帯域B_aと通信帯域B_cとの差以下である重み付け量のうち」)による制限を加えているが、この制限を外すことも可能である。この第2のスケジューリング方法は、この条件Aの制限を外した例である。

【0058】図16のステップS201～S203は、図13のステップS101～S103と同様であるので説明は省略する。

【0059】図16のステップS204において、たとえば通信帯域B_aと通信帯域B_bとの差が比較値以下であり、通信帯域B_aと通信帯域B_cとの差が比較値以上である場合、スケジューリング処理部1012は、通信帯域B_bは通信帯域B_aと同じであるとみなす。そして、大きい方の通信帯域をそれらの代表値とする。

【0060】一方、スケジューリング処理部1012は、通信帯域B_cに続く通信帯域の割り当てを、フレーム3に対して実行する。スケジューリング処理部1012は、フレーム3以外のフレーム1、2にすでに割り当てられている無線端末M_a、M_bの重み付け量G_a、G_bに干渉を及ぼさない重み付け量を記憶装置1013から選択する。その選択された重み付け量の無線端末20のうち、最大の通信帯域を必要とする無線端末20(以下、「M_e」呼ぶ)を選択する。ここで、無線端末M_eの重み付け量を「G_e」、無線端末M_eが必要とする通信帯域を「B_e」と呼ぶ。

【0061】そして、図17(a)に示すように、無線端末M_eに対し、フレーム3の通信帯域B_cの後に、通信帯域B_eを割り当てる。

【0062】図16のステップS205において、サービスエリア18内に在囲するすべての無線端末10に対する通信帯域の割り当てが終了すれば(S205 YES)、ダウンリンクの通信帯域の割り当てが終了する。また、フレーム1、2、3内の残りのダウンリンク用通信帯域が所定値以下である場合にも(S205 YES)、同様に、ダウンリンクの通信帯域の割り当てを終了する。

【0063】一方、まだ通信帯域が割り当てされていない無線端末20が存在し、ダウンリンク用通信帯域の残りが所定値以上であれば(S205NO)、再びステップS202に戻る。そして、スケジューリング処理部1012は、今度は、通信帯域Baと通信帯域Bc, Beの総和(Bc+Be)との差を計算し、ステップS203で、その差を比較値との比較を実行する。そして、その差が比較値以下であれば(S203以下)、通信帯域Ba通信帯域Bc+Beは同じ大きさであるとみなし、ステップS201に戻る。ただし、通信帯域Baと通信帯域Bc+Beのうち、大きい方の通信帯域を代表値とする。

【0064】一方、その差が比較値以上であれば(S203以上)、ステップS204に進む。ここで、通信帯域Ba<通信帯域Bc+Beの場合は、スケジューリング処理部1012は、重み付け量Geに干渉を及ぼさない重み付け量を記憶装置1013から選択し、その選択された重み付け量の無線端末20のうち、最大の通信帯域を必要とする無線端末20(以下、「Mf」と呼ぶ)を選択する。ここで、無線端末Mfの重み付け量を「Gf」、無線端末Mfが必要とする通信帯域を「Bf」と呼ぶ。ところで、無線端末Mfの選択の際に、無線端末Mc(重み付け量Gc)からの干渉を考慮しないのは、通信帯域Ba>通信帯域Bcだからである。そして、図17(a)に示すように、無線端末Mfに対し、フレーム1の通信帯域Baの後に通信帯域Bfを割り当てる。もちろん、フレーム2の通信帯域Bbの後に割り当てても良い。

【0065】このように、第2のスケジューリング方法は、割り当てられた通信帯域の総和が最小となるフレームから順番に通信帯域の割り当てを実行する方法である。これに対し、上記の第1のスケジューリング方法は、基準フレーム(ここではフレーム1)を基準とし、フレーム1以外の他のフレームに割り当てられた通信帯域の総和が、常にフレーム1に割り当てた通信帯域の総和以下になるように通信帯域の割り当てを実行する方法である。

【0066】なお、上記の第1および第2のスケジューリング方法のステップS101, S104, S201, S204において、干渉を及ぼさない無線端末20が存在しない場合には、通信帯域の割り当てを中断する。たとえば、図17(b)に示すように、フレーム1に割り当てられた通信帯域Baに干渉を及ぼさない無線端末20が存在しない場合には、同一時刻のフレーム2, 3の通信帯域に対する割り当ては中断し、再び、フレーム1の通信帯域Baの後に対する割り当てを実行する。ただし、この場合には、フレーム2および3に割り当てた通信帯域の総和は、フレーム1に割り当てられた通信帯域の総和と同じであるとみなす。

【0067】ランダムアクセスチャネルについては、基

本的には、BCHと同様にアンテナ装置14を無指向性とし、図10の変復調部選択部1020で選択された復調部1010を用いて復調処理を行なう。ただし、アンテナ装置14に対し指向性を持たせて空間を3つに分割し、3つの復調部1010を利用して復調処理を行っても良い。

【0068】また、上述した第1および第2のスケジューリング方法は、無線端末20ごとに重み付け量と通信帯域を管理した場合の方法であるが、重み付け量に応じて無線端末20をグルーピングしても良い。この場合、スケジューリング処理部1012は、重み付け量が同じとみなすことができる無線端末20を1つの集合とみなす。上記の無線端末Ma, Mb, Mcは、重み付け量Ga, Gb, Gcである無線端末の集合であると考えれば良い。図18に例示するように、無線端末20dおよび20eは、同一の重み付け量である無線端末群26とみなすことができる。そして、その無線端末群は、同一フレームで通信を行なうようにスケジューリングを行なう。また、同一フレームで送信する同一グループの無線端末群に対しては、連続する通信帯域を割り当てる。これにより、アンテナ素子12の重み付け量を設定するためのガードタイムを設ける必要がなくなり、フレーム効率を向上させることができる。つまり、周波数有効利用に効果的である。

【0069】(B) 複数FCHの場合

図19は、複数FCHを採用した場合における、フレーム構成のスケジューリング方法の処理手順を示すフローチャートである。

【0070】図19のステップS301は図13のステップS101と同様であるので説明は省略する。なお、ここでは、図20(a)に示すように、フレーム1に無線端末M1a、フレーム2に無線端末M2a、フレーム3に無線端末M3aがそれぞれ割り当てられたとする。また、無線端末M1aの重み付け量を「G1a」、無線端末M1aが必要とする通信帯域を「B1a」と呼ぶ。無線端末M2aの重み付け量を「G2a」、無線端末M2aが必要とする通信帯域を「B2a」と呼ぶ。無線端末M3aの重み付け量を「G3a」、無線端末M3aが必要とする通信帯域を「B3a」と呼ぶ。

【0071】図19のステップS302において、スケジューリング処理部1012は、各フレーム1, 2, 3に割り当てられた通信帯域の総和を算出する。

【0072】次に、図19のステップS303において、スケジューリング処理部1012は、ステップS302で算出された各フレーム1, 2, 3の通信帯域の総和の最も小さいフレームに対するスケジューリングを行なう。たとえば図20(a)に例示するように、フレーム3に割り当てられた通信帯域の総和が最も小さい場合、フレーム3以外のフレーム1, 2に割り当てられた重み付け量(ここでは、G1a, G2a)に干渉を及ぼ

さない重み付け量の無線端末20を記憶装置1013から選択し、その選択された無線端末20のうち、最も大きい通信帯域を必要とする無線端末20(以下、「M3b」と呼ぶ)を1つ選択する。ここで、無線端末M3bの重み付け量を「G3b」、無線端末M3bが必要とする通信帯域を「B3b」と呼ぶ。

【0073】そして、図20(b)に示すように、無線端末M3bに対し、フレーム3の通信帯域B3aの後に、通信帯域B3bを割り当てる。

【0074】図19のステップS304において、サービスエリア18内に在囲するすべての無線端末20に対する通信帯域の割り当てが終了すれば(S304 YES)、ダウンリンクの通信帯域の割り当てが終了する。また、また、フレーム1, 2, 3内の残りのダウンリンク用通信帯域が所定値以下である場合にも(S304 YES)、同様に、ダウンリンクの通信帯域の割り当てを終了する。

【0075】一方、まだ通信帯域が割り当てされていない無線端末20が存在し、ダウンリンク用通信帯域の残りが所定値以上であれば(S304 NO)、再びステップS302に戻る。

【0076】このステップS302～S304を繰り返すことにより、各フレーム1, 2, 3の通信帯域の割り当てを行なう。なお、ステップS302において、干渉を及ぼさない無線端末20が存在しない場合は、そのフレームに対する通信帯域の割り当てを中断し、他のフレームに対する通信帯域の割り当てを行なう。

【0077】そして、ダウンリンクの割り当てが終わった後に、残りの通信帯域をアップリンクに割り当てる。TDMA/TDD方式の場合、1FCHの時と同様に、あるフレームで送信処理が行われている時刻に、別のフレームでは受信処理が行われることもあるが、互いに干渉を及ぼさなければ何ら問題はなく、上述のアルゴリズムが適用できる。つまり、アップリンクの割り当てもダウンリンクの割り当てと同様である。そのためアップリンク割り当てに関する詳細説明は省略する。また、本実施例ではダウンリンクに割り当てた通信帯域の残りをアップリンクの通信帯域に割り当てる場合について説明しているが、本発明はこれに限定されるものではない。

【0078】また、重み付け量に応じて無線端末20をグルーピングする方法は、M1a, M2a, M3a, M3bは、重み付け量G1a, G2a, G3a, G3bとみなせる無線端末の集合ととらえ、前述と同様のスケジューリングを行なう。

【0079】本発明の実施の形態では、フレーム構成としてTDMA/TDDフレームを用いて説明したが、本発明はこれに限定されることなく、TDMA/FDD(TimeDivision Multiple Access/Frequency Division Duplex)方式の場合にも適用できる。TDMA/FDDフレームの場合、送信と受信とで異なる周波数を用いる

ため、送信と受信で全く独立してスケジューリングされるが、基本的には、本発明の実施の形態に係るスケジューリング方法と同様である。なお、この場合、図2のスイッチ1006は共用器となり、また、ビーム形成のための重み付け量の導出方法(送信)は変更されることになる。

【0080】本発明に実施の形態によれば、同一周波数、同一時刻に、異なる無線端末と無線基地局との間での無線通信が可能となる。このため、無線基地局が収容できる無線端末の数を増大させることができる。

【0081】また、アンテナの指向性を制御することで、干渉波は抑制され、通信品質を向上させることができる。さらに、アンテナ指向性の類似した無線端末に対しては、同一フレームの連続する通信帯域を割り当てることで、アンテナ制御に必要な切り替え時間を短縮できる。また、通信帯域を効率的に割り当てることが可能である。このため、周波数の利用効率が向上する。

【0082】

【発明の効果】本発明によれば、同一周波数、同一時刻に、異なる無線端末と無線基地局との間での無線通信を実現できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態に係る無線通信システムの構成を示すブロック図である。

【図2】図1の無線基地局10の構成を示すブロック図である。

【図3】図2の受信用マルチビーム形成回路1009の構成を示すブロック図である。

【図4】図3の受信用ビーム形成回路1014の構成を示すブロック図である。

【図5】図2の送信用マルチビーム形成回路1003の構成を示すブロック図である。

【図6】図5の送信用ビーム形成回路1017の構成を示すブロック図である。

【図7】一般的なTDMA/TDDフレームの構成を示す図である。

【図8】図7の報知チャネルの内容を説明する図である。

【図9】本発明の実施の形態に係る無線通信システムで利用される、1FCHである場合のフレーム構成を示す図である。

【図10】図2のMAC部1001の他の構成を示すブロック図である。

【図11】本発明の実施の形態に係る無線通信システムで利用される、複数FCHである場合のフレーム構成を示す図である。

【図12】図9のフレーム構成と図11のフレーム構成の特徴の違いを説明するための図である。

【図13】本発明の実施の形態に係る、1FCHを採用したフレーム構成の第1のスケジューリング方法の処理

手順を示すフローチャートである。

【図14】図1の無線基地局10が3つの無線端末20a, 20b, 20cそれぞれに対する3つのアンテナ指向性22a, 22b, 22cを形成した様子を示す図である。

【図15】1FCCHを採用したフレーム1, 2, 3に対する通信帯域の割り当てが実行される様子を示す図である。

【図16】本発明の実施の形態に係る、1FCCHを採用したフレーム構成の第2のスケジューリング方法の処理手順を示すフローチャートである。

【図17】1FCCHを採用したフレーム1, 2, 3に対する通信帯域の割り当てが実行される様子を示す図である。

【図18】無線端末20dおよび20eを1つの無線端末群26とする様子を示す図である。

【図19】本発明の実施の形態に係る、複数FCCHを採用したフレーム構成の第1のスケジューリング方法の処理手順を示すフローチャートである。

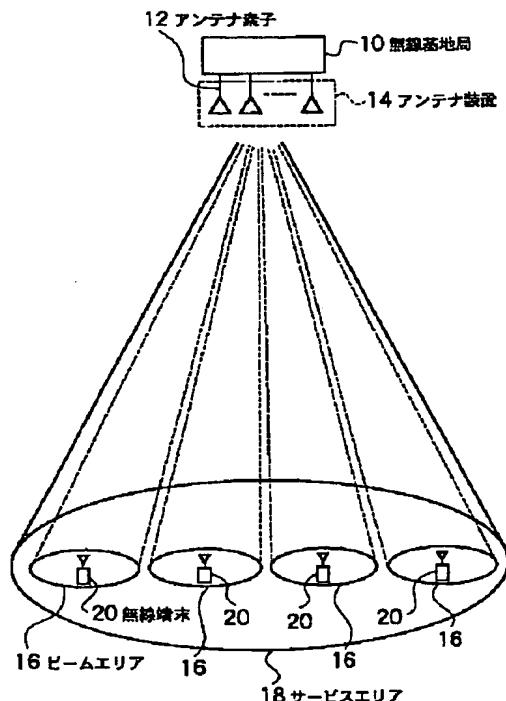
【図20】複数FCCHを採用したフレーム1, 2, 3に対する通信帯域の割り当てが実行される様子を示す図である。

【符号の説明】

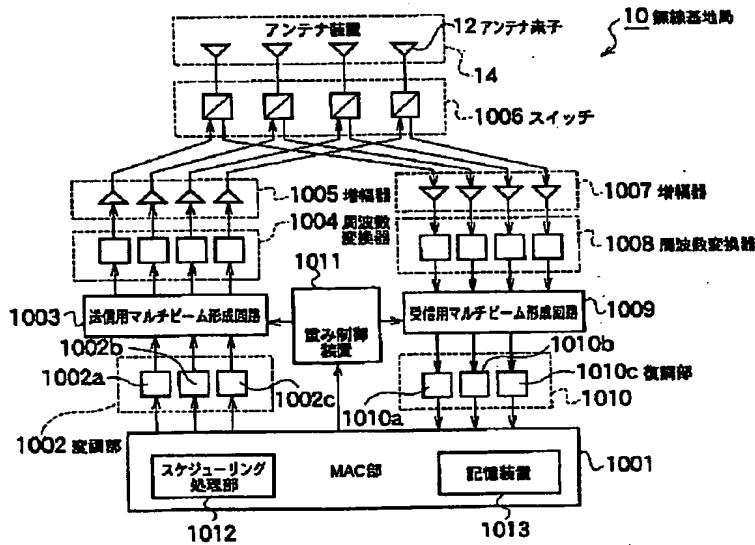
10 無線基地局

- 12 アンテナ素子
- 14 アンテナ装置
- 16 ビームエリア
- 18 サービスエリア
- 20 無線端末
- 22, 24 アンテナ指向性
- 26 無線端末群
- 1001 MAC部
- 1002 変調部
- 1003 送信用マルチビーム形成回路
- 1004, 1008 周波数変換器
- 1005, 1007 増幅器
- 1006 スイッチ
- 1009 受信用マルチビーム形成回路
- 1010 復調部
- 1011 重み制御装置
- 1012 スケジューリング処理部
- 1013 記憶装置
- 1014 受信ビーム形成回路
- 1015, 1018 重み付け器
- 1016 合成器
- 1017 送信用ビーム形成回路
- 1019 分配器
- 1020 変復調選択部

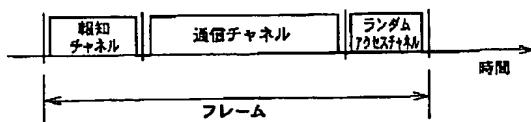
【図1】



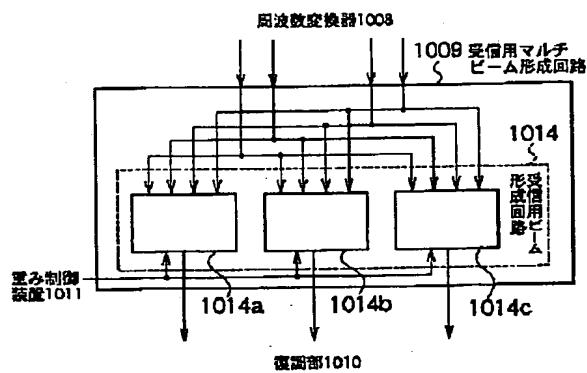
【図2】



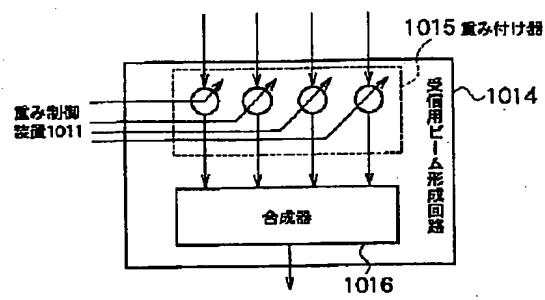
【図7】



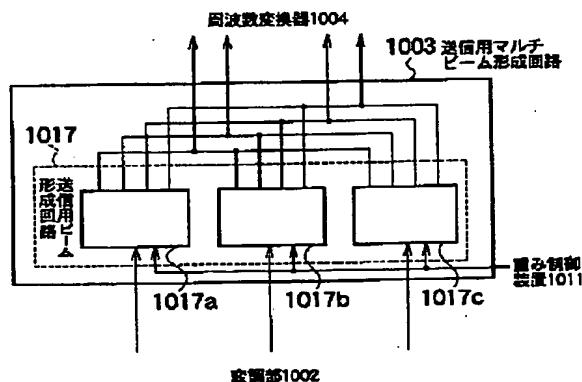
【図3】



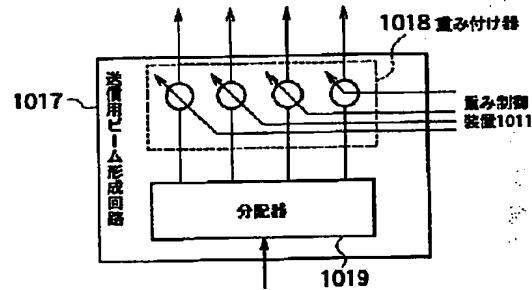
【図4】



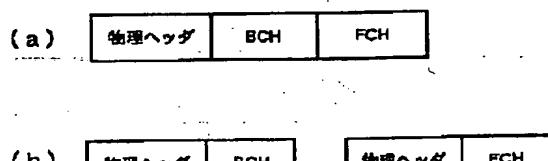
【図5】



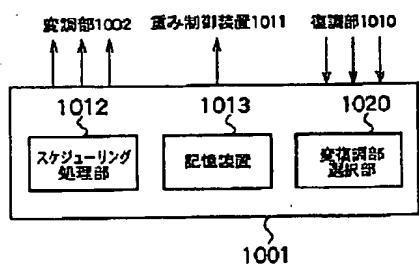
【図6】



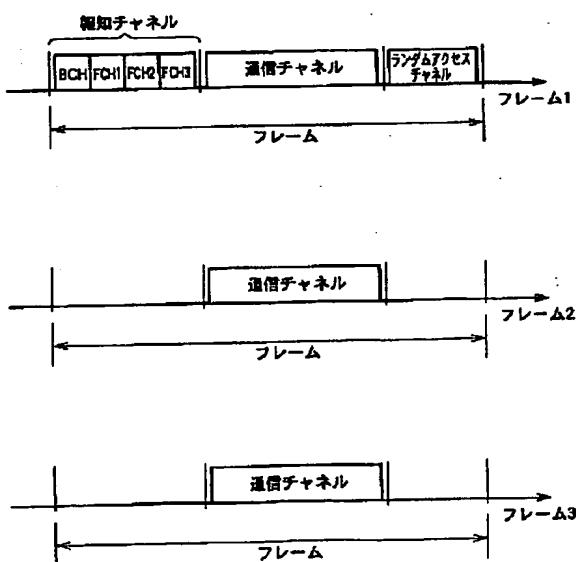
【図8】



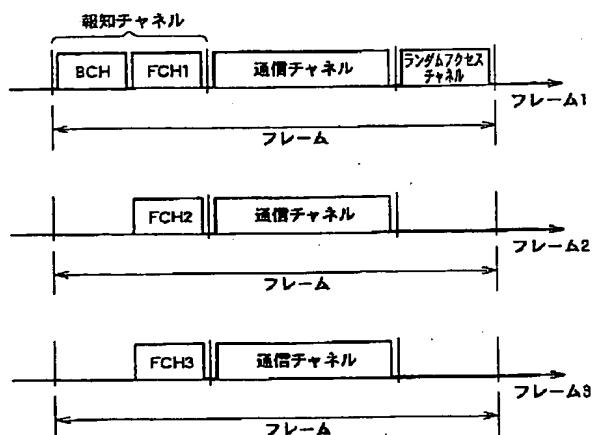
【図10】



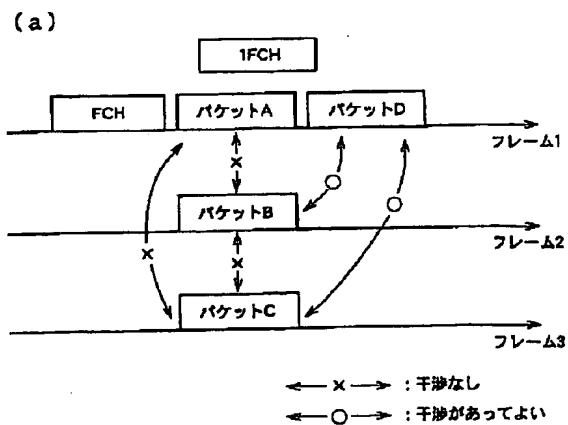
【図9】



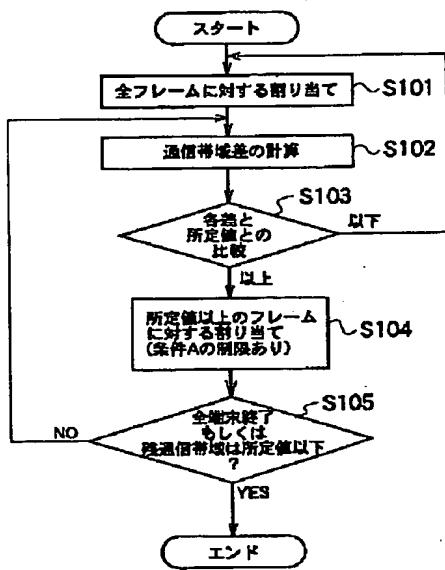
【図11】



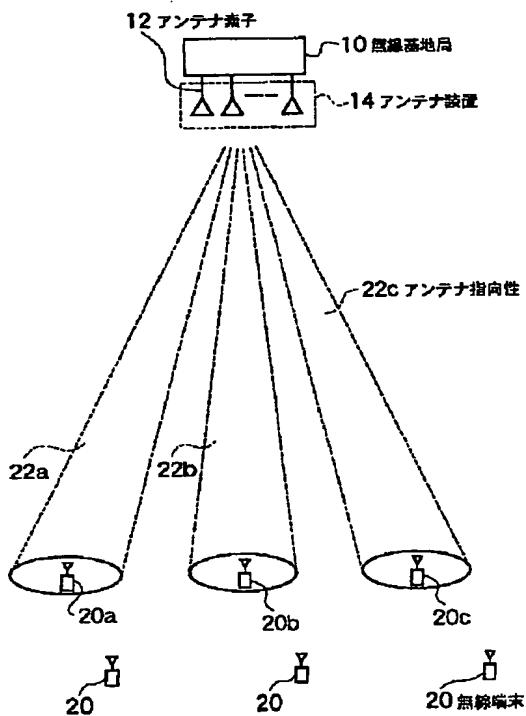
【図12】



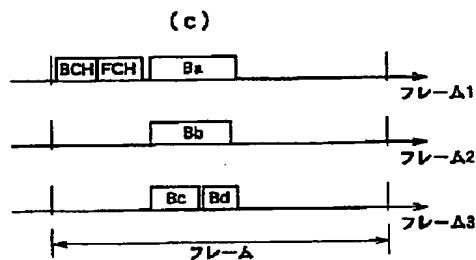
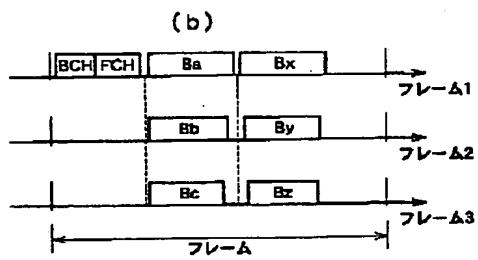
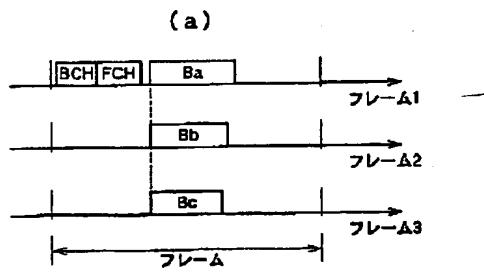
【図13】



【図14】

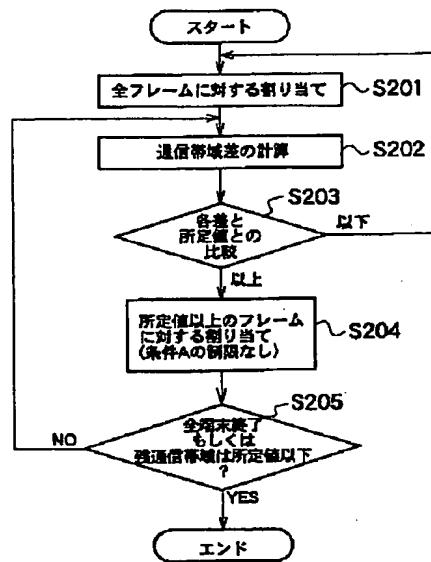


【図15】

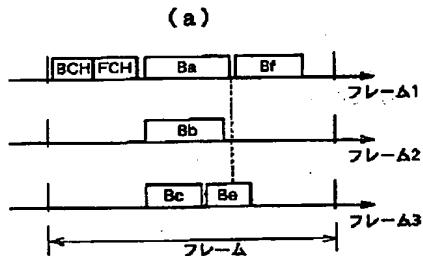


【図19】

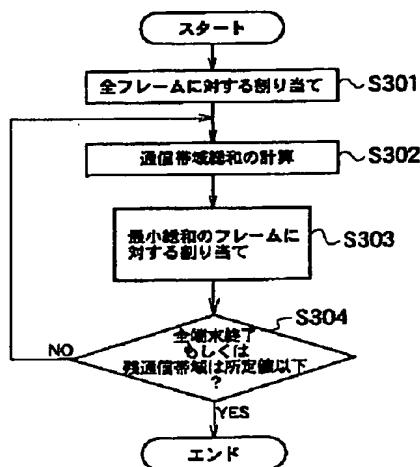
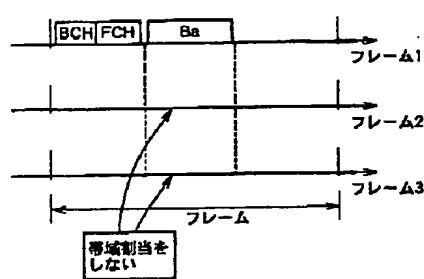
【図16】



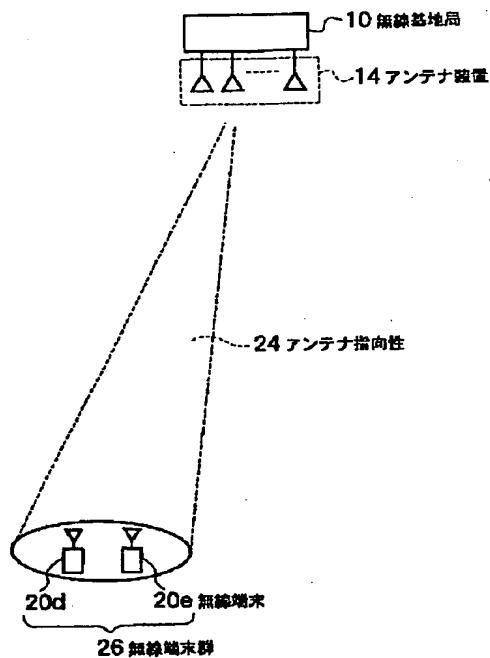
【図17】



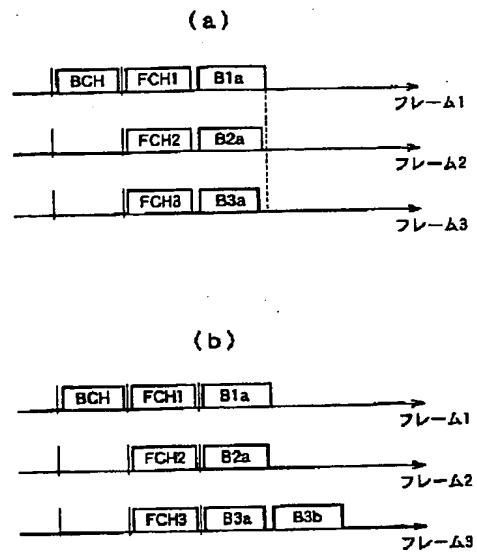
(b)



【図18】



【図20】



フロントページの続き

(72)発明者 玉田 雄三
神奈川県川崎市幸区小向東芝町1 株式会
社東芝研究開発センター内

Fターム(参考) 5J021 AA05 AA06 CA06 DB02 DB03
EA04 FA17 FA20 FA24 FA26
FA29 FA30 FA32 GA02 GA08
HA05 HA10
5K067 AA03 BB01 BB21 CC04 EE02
EE10 EE53 EE71 HH22 HH23